



150th Anniversary

三重県誕生 150周年

暮らしを支え、未来を拓く

インフラ



150周年の歴史を詳しく見る

● **1930年**
近鉄の前身である伊勢電気鉄道が桑名・伊勢間を全線開通し、特急の運行を開始する

● **1953年**
全国初の有料道路、参宮有料道路が開通する

● **1956年**
北伊勢工業用水道が給水を開始し、四日市コンビナートの操業を支える

● **1959年**
国鉄紀勢線(現在のJR紀勢本線)が全線開通し、三重県と和歌山県、大阪方面へのアクセスが向上する

● **1964年**
鳥羽・伊良湖航路(伊勢湾フェリー)が運航開始する

● **1993年**
伊勢自動車道が全線開通する

● **2005年**
中部国際空港が開港する併せて空港・三重県間の海上アクセスが運航開始する東名阪自動車道など高速道路網の整備が進む

● **2014年**
紀勢自動車道の三重県内区間が全線開通する

● **2019年**
新名神高速道路の三重県内区間が全線開通する

● **将来**
リニア中央新幹線三重県駅が設置される予定



伊勢湾フェリー 伊勢丸(写真提供:伊勢湾フェリー株式会社)



伊勢自動車道 全線開通(写真提供:NEXCO中日本)

暮らしを支え、未来を拓く Supporting Daily Life, Shaping the Future

三重県のインフラは、先人たちが未来を見据えて築き上げてきた、私たちの暮らしを支えています。

1930(昭和5年)年に近鉄の前身である伊勢電気鉄道が桑名・伊勢間を全線開通し、1947年(昭和22年)には戦後日本の私鉄で初めての座席定員制有料特急の運行を開始しました。その後も、1959年(昭和34年)には国鉄紀勢線(現在のJR紀勢本線)の全線開通や、伊勢自動車道、東名阪自動車道などの高速道路網の整備が進みました。これらの交通インフラは、人や物の流れを活発にし、三重県の豊かな生活や産業活動を支えています。

また、産業活動を支える工業用水や、人々の生活や経済活動を支える電力供給のインフラも、三重県の成長には欠かせません。四日市コンビナートを支えるため、1956年(昭和31年)には北伊勢工業用水道の給水が開始され、安定した水の供給が実現しました。電力については、1954年(昭和29年)に運転を開始した長発電所をはじめ、1989年(平成元年)に川越火力発電所が運転を開始するなど、先人たちが築いてきた遺産は、三重県民の暮らしや経済活動を支えてきました。

海上交通では鳥羽・伊良湖間や津と中部国際空港をつなぐ航路が運航しています。

また、未来を見据えた新たな動きとして、リニア中央新幹線三重県駅が設置される予定です。近鉄やJR東海、高速道路といった広域交通網だけでなく、地域鉄道など、地域に根ざした交通網が住民の暮らしを支え、郷土愛を育んでいます。採算性だけでは維持が難しい路線を、住民、民間企業、行政が一体となって守り続けてきた努力は、まさに三重県のシビックプライドの象徴です。

過去に築かれたインフラが今日の三重県を支えているように、これからのインフラは、次の50年、100年の三重県の未来を拓いていきます。

私たちは、過去の経験から学び、課題を乗り越え、誰もが笑顔で暮らせる持続可能な社会を次世代へとつないでいく使命を担っています。



国鉄紀勢線は現在、JR紀勢本線として運行



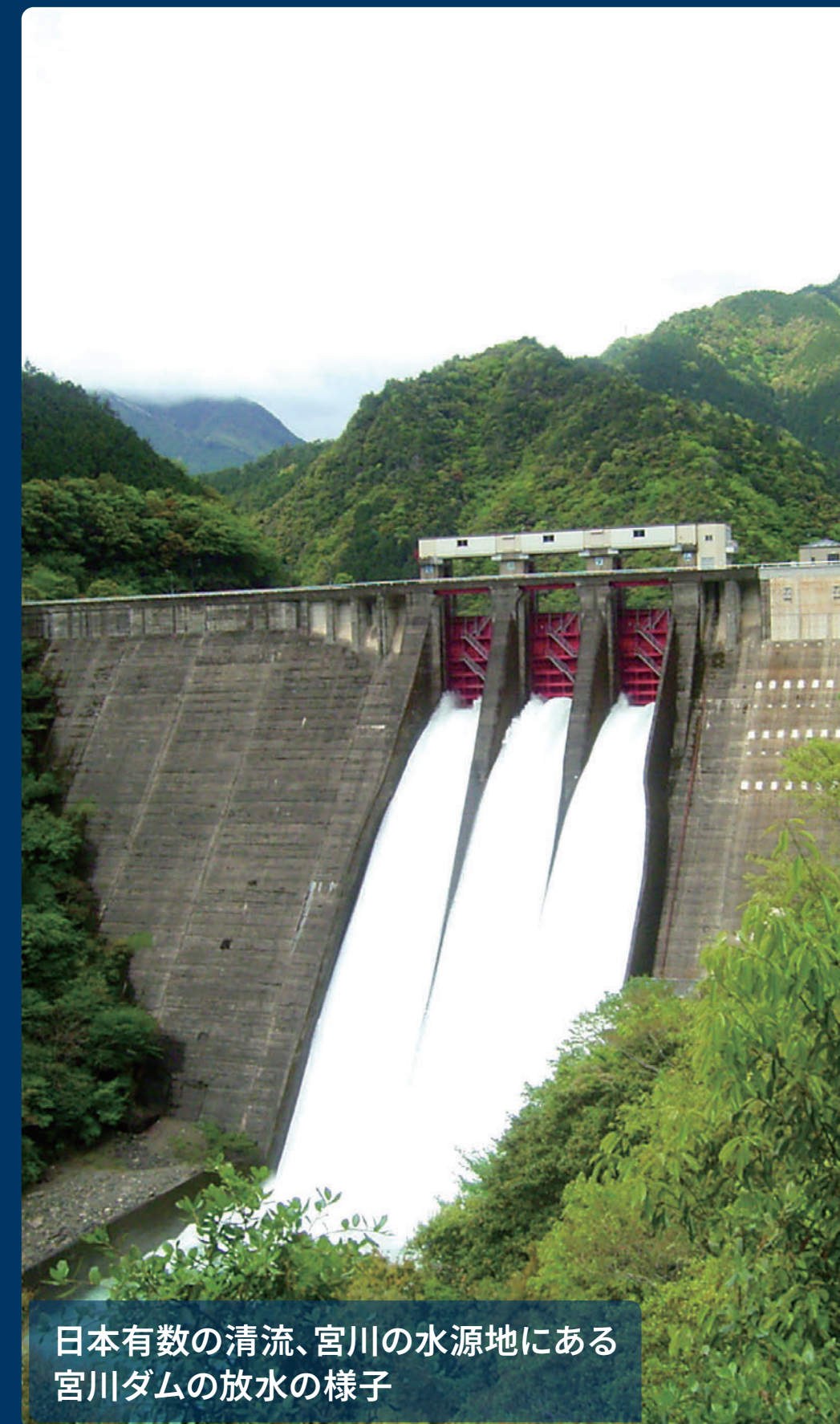
三重県を縦断する近鉄特急しまかぜ(写真提供:近畿日本鉄道株式会社)



安定した水を供給する北伊勢工業用水道



日本に3本しかない特殊狭軌鉄道、北勢線(写真提供:三岐鉄道株式会社)



日本有数の清流、宮川の水源にある宮川ダム放水の様子



紀勢自動車道 開通式典(写真提供:NEXCO中日本)



東名阪自動車道と伊勢自動車道が直結(写真提供:NEXCO中日本)

未来を走るリニアと三重 Running in the Future

将来、リニア中央新幹線三重県駅が建設される予定です。

リニアが開業すれば、東京・名古屋・大阪との移動時間は大幅に縮まり、通勤や通学、観光やビジネスの可能性が大きく広がります。移動の速さは人々のライフスタイルを変え、時間の使い方や交流のあり方に新しい選択肢を生み出します。

また、地域経済や文化の発展にもつながり、三重の魅力を全国、さらには世界へと発信する力を高めていくでしょう。リニアの開業は、人々の暮らしをより便利で豊かにし、未来への可能性を力強く拓いていきます。



リニア中央新幹線(写真提供:JR東海)